

イギリス帝国の歴史

～19世紀世界の支配者イギリス帝国と
アジア諸国との関係～

序章

1. 世界のGDPの変遷

インド：1947年独立までの約200年間

イギリス帝国の植民地

→1980年以降経済成長中のインドの現状と歴史的
背景に着目→イギリス帝国との関係を提示

2. イギリス帝国の形成、発展、解体を

18世紀、19世紀、20世紀に区分し考察

1章. 環大西洋世界

a) イギリス帝国の起源

17世紀前半：アイルランド
イングランド&スコット

1652年：ピューリタン革命
の事実上の植民地化開始

→ブリテン島から西方へ
アメリカ大陸、西イン

b) 1600年：イギリス東
→アジアとの交易



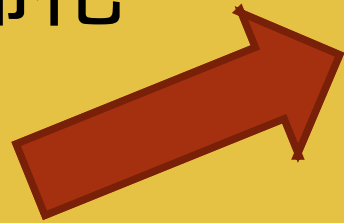
18世紀のイギリス

a) 18世紀イギリス商業革命

→主導「大西洋の三角貿易」→**奴隸貿易**

{**奴隸貿易**}

砂糖・綿花



イギリス帝国

綿布・鉄砲



西インド諸島

奴隸



西アフリカ大陸

北米植民地とアメリカ独立革命

a) 北米タバコ植民地(チェサピーク湾地域)

タバコ：本国依存度 $\textcircled{\text{低}}$ \Leftrightarrow 砂糖：国内消費 $\textcircled{\text{高}}$

→北米植民地は本国の雑工業製品に購買力と市場を提供

b) 1756年-63年 7年戦争勃発→**財政赤字**！

北米植民地に負担(増税等)→植民地の住民は反発

→1775年アメリカ独立戦争へ

第二章 自由貿易帝国

a) 18世紀－19世紀の転換期

1793年 フランス革命→イギリスは軍事的に対峙

b) 奴隷貿易廃止 理由：奴隷貿易の非人道性、奴隷労働力で生産の砂糖の国際競争力の低下

「重商主義的貿易」→「自由貿易主体へ」

航海法の撤廃→海運業の独占廃止による外国との英領植民地との貿易拡大・植民地と本国との共存共栄

19世紀半ばの帝国拡張

a) 1853年 英領インドで鉄道建設

→インド栽培の小麦、綿花、茶等を鉄道経由で欧米諸国や日本等に輸出→世界経済の中心へ

b) オーストラリアとニュージーランドの植民地化

理由：北米大陸流刑植民地の喪失 & (仏)への対抗

c) アジア諸国と砲艦外交を展開

→アジア諸国にも植民地化を開始

金融と帝国

a) 1873～96年 イギリス経済の大不況期

解決策：イギリスが開放的な自由輸入の体制維持 & インドの貿易黒字の吸収

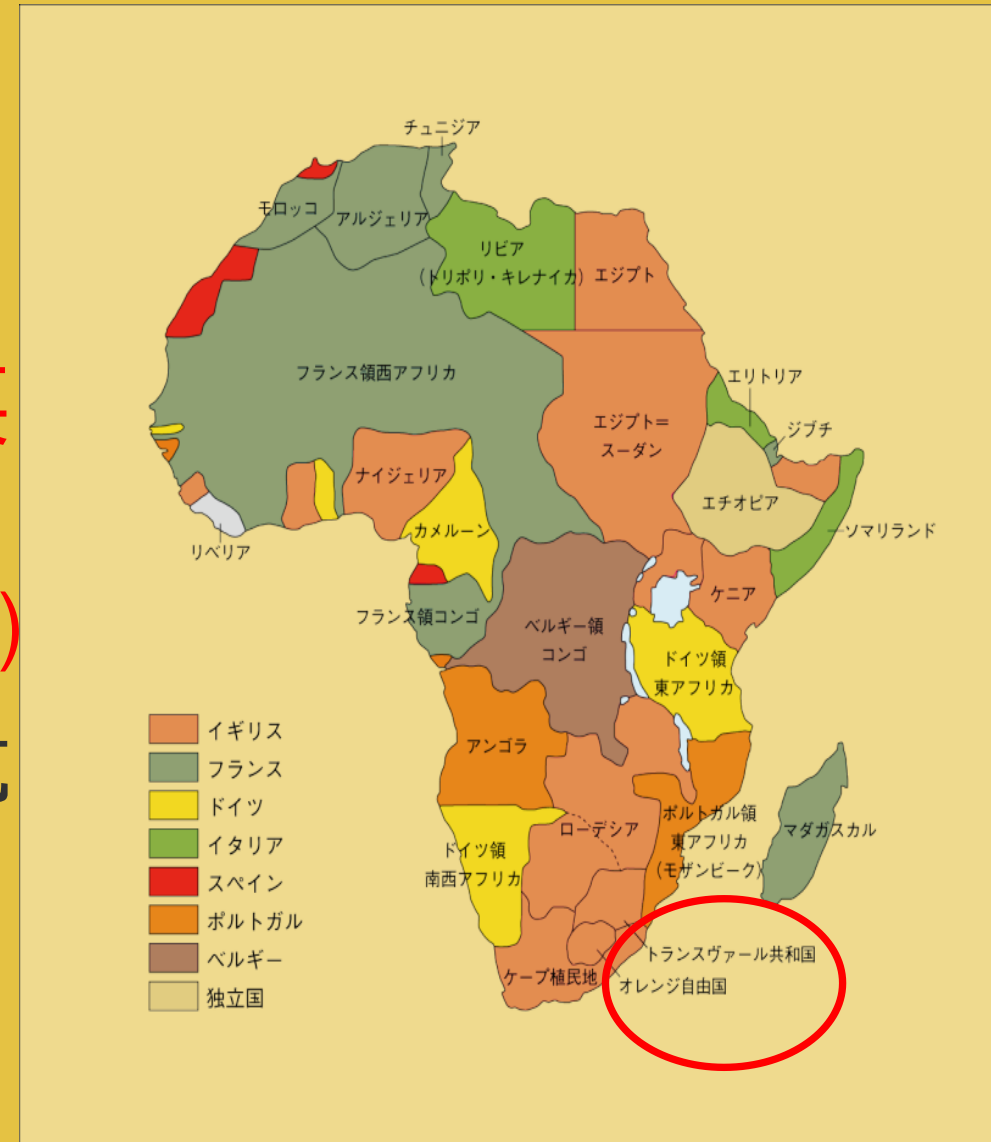
b) 20世紀初頭のイギリス経済

→膨大な貿易赤字を貿易外収支(利子・配当収入等)で穴埋⇒多角的決済機構の中心国、国際金融の基軸国へ

イギリスの軍事力

a) 1899年 南アフリカ戦争(英国VSアフリカ南部のトランスバール共和国とオレンジ自由国)

→戦争の長期化(2年半)⇒財政危機



イギリスと近代日本

a) 1900年 義和団事件(in中国)

→列強の連合軍や日本陸軍等の派兵でようやく鎮
圧

b) 2つの出来事で英国の軍事力弱体化が顕著化

c) 19世紀の英国は広大な公式帝国(植民地)を各地
に保有のヘゲモニー国家

3章. 帝国からドミニオンへ

a) 日本と英国

(国際金融面) 日清戦争の賠償金を英国の銀行預託

(政治外交面) 1902年 日英同盟

→両国の緊密な関係の構築

b) 1914年 第一次世界大戦

→英国の植民地から多数の兵を派兵

その半数はインド人兵→ナショナリズムの高揚

ヘゲモニー国家からの変遷

a) 19世紀末 白人自治領の植民地ナショナリズム
台頭と「ドミニオン」概念の誕生

ドミニオン：独自の議会と政府設置の半独立国家

b) 19世紀－20世紀の転換期

帝国(植民地)の領域限定的軍事力・政治力の規定
範囲の権力→国際的な経済影響力の強化へ

脱植民地化の加速

a) 第二次世界大戦→反ファシズム

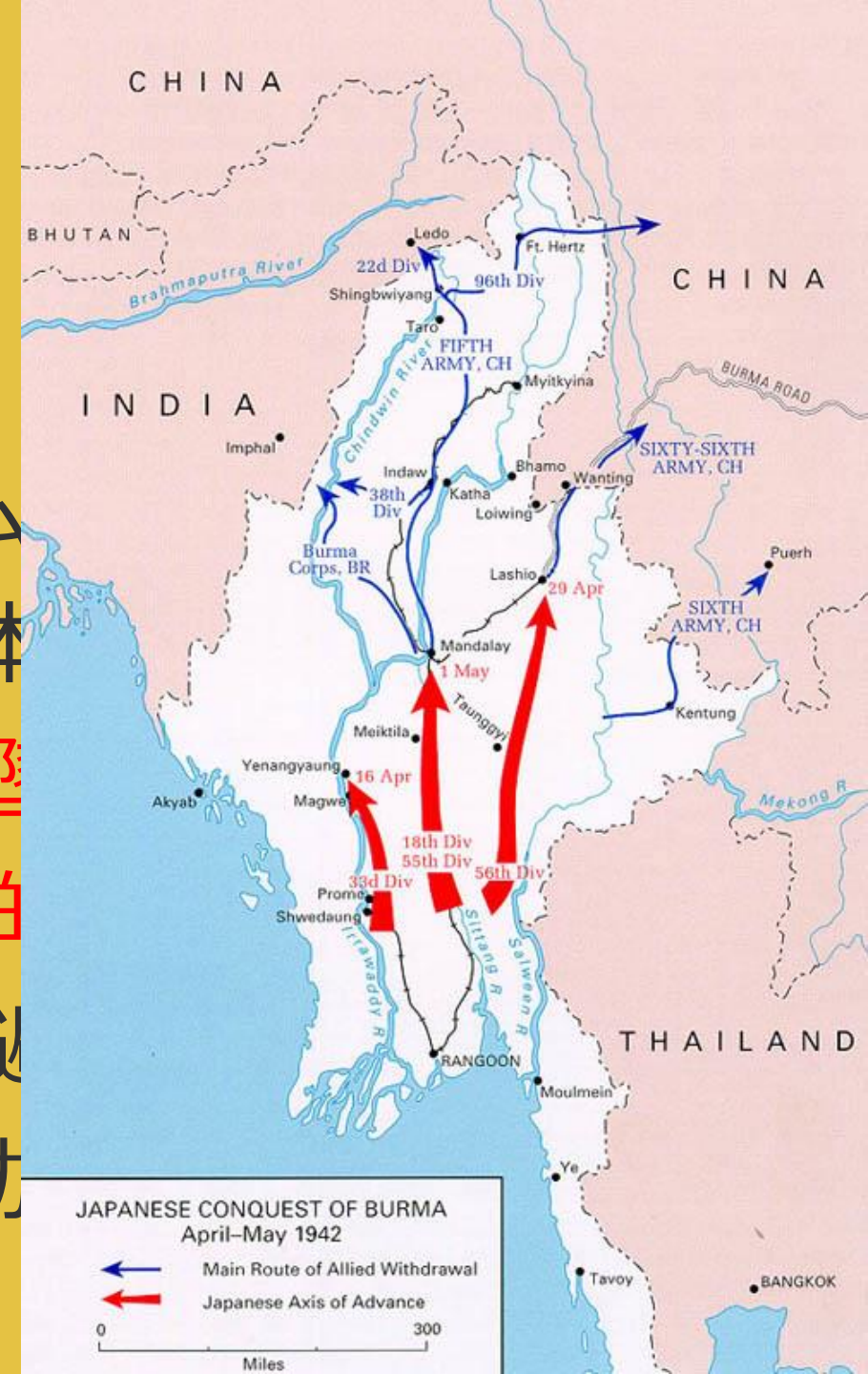
But 1942年シンガポール陥落・日本

i) アジアのイギリスの権威失墜

ii) アメリカへの軍事的・経済的

⇒米国の半植民地主義の無視不可避

⇒帝国支配の終焉、脱植民地化が加速



脱植民地化の進展

a) 戦後直後1947年 インド・パキスタン独立
背景：英国帝国のインド軍への統制力の喪失
⇒ 政治的ナショナリズムの高揚・アジア諸国に脱植民地化の進展



イギリスの変遷

a) 戦後アフリカや大西洋諸島の独立

⇒帝国(植民地) 重視からヨーロッパ経済共同体重視の姿勢へ

b) 1997年7月1日 香港が中国に返還

→155年の**アジア植民地支配終止符**

終章

- a) 19世紀－20世紀のイギリスは圧倒的経済力と軍事力保有のヘゲモニー国家
- b) 現代の世界経済の中心→欧米世界、環大西洋経済圏からアジア太平洋経済圏に移行
- c) イギリス帝国の歴史は環大西洋経済圏とアジア太平洋経済圏の両方を包括
→イギリス帝国の歴史は両方の構成に不可欠

終わり